

スーパーマーケット販売統計調査資料

2017年9月実績 速報版(パネル270)

8月実績 確報版(パネル270)

(2017年10月20日公表)

調査資料概要

【パネル270社集計】

食品を中心に扱うスーパーマーケットを対象に同一企業を集計

※2016年4月実績よりパネル対象企業変更(275社→270社)

【集計項目】

商品分類別・エリア別・保有店舗別集計

集計企業数、総店舗数、総売場面積、店舗平均月商、売場1m²あたり売上高

【速報版・確報版】

速報版:毎月21日前後に前月販売実績を速報値として公表

確報版:速報値に精度の高い集計を行い確報値として公表

【全店・既存店】

全店:前年同月全営業店舗と当月全営業店舗の比較

既存店:前年同月、当月共に営業の店舗による比較

【商品分類】

総売上高	食品合計	生鮮3部門	青果	野菜類、果実類、花
			水産	魚介類、塩干物
			畜産	食肉類、肉加工品
		惣菜	惣菜、折詰料理、揚物、弁当、おにぎり、寿司、インスタアベーカーリー、ファーストフード	
	日配	豆腐、こんにゃく、納豆、練製品、佃煮、漬物、パン、卵、乳製品、生菓子、冷凍食品、アイスクリーム		
	一般食品	調味料、瓶缶詰、乾物、米、小麦粉、乾麺、嗜好品、菓子、酒類		
	非食品	日用雑貨品、医薬・化粧品、家具インテリア、家電製品、婦人衣料、紳士衣料、文具、玩具		
その他	テナント売上高、タバコ・ギフト販売、その他取次業(DPE、クリーニング、宅配便、レンタル、チケット販売等)			

【地方分類】

北海道・東北地方	北海道、青森、岩手、秋田、宮城、山形、福島
関東地方	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
中部地方	新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
近畿地方	三重、滋賀、奈良、和歌山、京都、大阪、兵庫
中国・四国地方	岡山、広島、鳥取、島根、山口、香川、徳島、愛媛、高知
九州・沖縄地方	福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄

※2014年4月実績よりエリア区分を8地方区分による6地方に変更

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会

オール日本スーパーマーケット協会

一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査に関するお問い合わせ

tokei@super.or.jp

2017年10月20日

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会
 一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査
 2017年9月実績 速報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	86,407,573	100.0%	101.8%	100.2%
食品合計	77,742,279	90.0%	102.0%	100.4%
生鮮3部門合計	29,433,220	34.1%	101.5%	99.7%
青果	12,273,351	14.2%	99.7%	98.1%
水産	7,235,429	8.4%	98.6%	96.8%
畜産	9,924,440	11.5%	105.9%	103.9%
惣菜	8,727,558	10.1%	101.3%	99.5%
日配	17,035,887	19.7%	102.4%	101.0%
一般食品	22,545,614	26.1%	102.7%	101.3%
非食品	6,376,300	7.4%	100.1%	99.8%
その他	2,289,037	2.6%	97.3%	98.8%

地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	11,841,008	43	102.2%	100.6%
関東地方	31,873,682	73	102.1%	100.7%
中部地方	10,546,239	53	101.1%	99.8%
近畿地方	18,646,605	44	100.5%	99.5%
中国・四国地方	8,617,096	34	100.8%	98.5%
九州・沖縄地方	4,882,943	23	106.3%	103.1%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	708,940	46	98.8%	98.8%
4~10店舗	3,776,436	70	101.4%	99.7%
11~25店舗	9,878,694	65	102.1%	99.7%
26~50店舗	15,438,573	45	100.7%	99.2%
51店舗以上	56,604,929	44	102.0%	100.6%

集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	84,324,803
総店舗数 (店舗)	7,858	店舗平均月商 (万円)	10,996
総売場面積 (㎡)	13,034,310	売場1㎡あたり売上高 (万円)	6.6

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

2017年10月20日

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会
 一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査
 2017年8月実績 確報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	92,471,651	100.0%	101.2%	99.8%
食品合計	82,985,271	89.7%	101.4%	99.9%
生鮮3部門合計	30,867,239	33.4%	101.4%	99.7%
青果	12,708,836	13.7%	99.7%	98.0%
水産	7,967,937	8.6%	100.7%	98.9%
畜産	10,190,466	11.0%	104.3%	102.5%
惣菜	9,850,843	10.7%	102.2%	100.4%
日配	17,745,071	19.2%	101.1%	100.0%
一般食品	24,522,117	26.5%	101.2%	99.8%
非食品	6,752,097	7.3%	99.6%	99.2%
その他	2,734,323	3.0%	98.2%	98.8%

地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	13,394,831	43	100.8%	99.7%
関東地方	33,052,509	73	101.8%	100.7%
中部地方	11,729,467	53	102.1%	100.3%
近畿地方	19,916,386	44	100.5%	99.5%
中国・四国地方	9,364,355	34	100.5%	97.9%
九州・沖縄地方	5,014,103	23	99.7%	98.2%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	814,582	47	97.9%	97.9%
4~10店舗	3,910,585	68	100.8%	99.0%
11~25店舗	10,850,334	66	101.1%	99.2%
26~50店舗	17,553,122	46	101.0%	99.4%
51店舗以上	59,343,027	43	101.3%	100.1%

集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	90,055,235
総店舗数 (店舗)	7,783	店舗平均月商 (万円)	11,881
総売場面積 (㎡)	12,881,379	売場1㎡あたり売上高 (万円)	7.2

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

2017年9月エリア別気候状況

1. 月の気温：西日本では低かった。北・東日本では平年並だった。

上旬：北・東・西日本で低かった一方、沖縄・奄美ではかなり高かった。

中旬：沖縄・奄美で高く、北・東・西日本では平年並だった。

下旬：沖縄・奄美でかなり高く、東日本で高かった。北・西日本では平年並だった。

2016年9月との比較：上旬と下旬は、前年よりかなり低い気温となった

	平年との比較 (°C)						今年と前年との差 (°C)		
	2017年9月			2016年9月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	-0.6	-0.6	0.2	1.2	-0.4	1.9	-1.8	-0.2	-1.7
東北地方	-1.6	0.4	0.4	2.0	0.3	2.1	-3.6	0.1	-1.7
関東甲信地方	-2.1	0.4	0.8	1.7	0.5	2.3	-3.8	-0.1	-1.5
北陸地方	-1.7	-0.1	0.3	1.4	0.0	1.5	-3.1	-0.1	-1.2
東海地方	-1.2	-0.1	0.4	1.0	0.7	1.7	-2.2	-0.8	-1.3
近畿地方	-1.1	-0.5	0.1	0.5	0.6	1.6	-1.6	-1.1	-1.5
中国地方	-1.5	-0.5	-0.3	0.4	0.2	1.4	-1.9	-0.7	-1.7
四国地方	-0.9	-0.3	-0.2	0.2	0.8	1.8	-1.1	-1.1	-2.0
九州北部	-1.0	-0.4	-0.2	0.1	0.5	2.1	-1.1	-0.9	-2.3
九州南部・奄美地方	0.0	0.1	-0.2	0.2	1.2	2.2	-0.2	-1.1	-2.4

平年差

+2°C以上

+1°C以上

-2°C以上

-1°C以上

前年差

+2°C以上

+1°C以上

-2°C以上

-1°C以上

2. 月の日照時間：北日本と東日本日本海側でかなり多かった。一方、西日本で少なかった。

上旬：北日本でかなり多く、東日本日本海側で多かった。

中旬：西日本太平洋側でかなり少なく、北・西日本日本海側で少なかった。

下旬：北・東日本、西日本日本海側と沖縄・奄美で多かった。

2016年9月との比較：中旬以降、前年よりやや多い日照時間となった

	日照時間 平年比 (%)						今年と前年との差 (%)		
	2017年9月			2016年9月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	148	77	114	54	95	116	94	-18	-2
東北地方	143	110	142	121	53	74	22	57	68
関東甲信地方	101	113	141	130	25	58	-29	88	83
北陸地方	131	100	155	127	38	61	4	62	94
東海地方	98	87	132	118	28	55	-20	59	77
近畿地方	100	76	139	106	37	52	-6	39	87
中国地方	90	84	141	81	38	58	9	46	83
四国地方	100	62	102	95	52	53	5	10	49
九州北部	99	51	96	71	50	70	28	1	26
九州南部・奄美地方	114	63	79	93	80	103	21	-17	-24

平年差

平年比150%以上

平年比125%~149%

平年比50%以下

平年比51%~75%

前年差

+50%以上

+25~49%

-50%以下

-25~49%

3. 月の降水量：西日本日本海側と沖縄・奄美で多かった。一方、東日本太平洋側では少なかった。

上旬：北日本でかなり少なかった。東・西日本と沖縄・奄美では平年並だった。

中旬：北日本日本海側と西日本でかなり多く、北日本太平洋側と沖縄・奄美で多かった。

下旬：北日本日本海側で多かった一方、北・西日本太平洋側で少なかった。

2016年9月との比較：中旬はかなり降水量が少なく、下旬もやや少ない降水量となった

	降水量 平年比 (%)						今年と前年との差 (%)		
	2017年9月			2016年9月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	13	260	89	174	48	36	-161	212	53
東北地方	44	128	98	124	92	101	-80	36	-3
関東甲信地方	65	85	84	80	233	79	-15	-148	5
北陸地方	92	100	74	64	213	147	28	-113	-73
東海地方	62	83	69	84	206	112	-22	-123	-43
近畿地方	57	179	36	106	266	129	-49	-87	-93
中国地方	98	266	62	99	322	116	-1	-56	-54
四国地方	65	233	30	128	334	118	-63	-101	-88
九州北部	85	208	71	72	384	221	13	-176	-150
九州南部・奄美地方	100	204	114	175	260	49	-75	-56	65

平年差

平年比150%以上

平年比125%~149%

平年比50%以下

平年比51%~75%

前年差

+50%以上

+25~49%

-50%以下

-25~49%

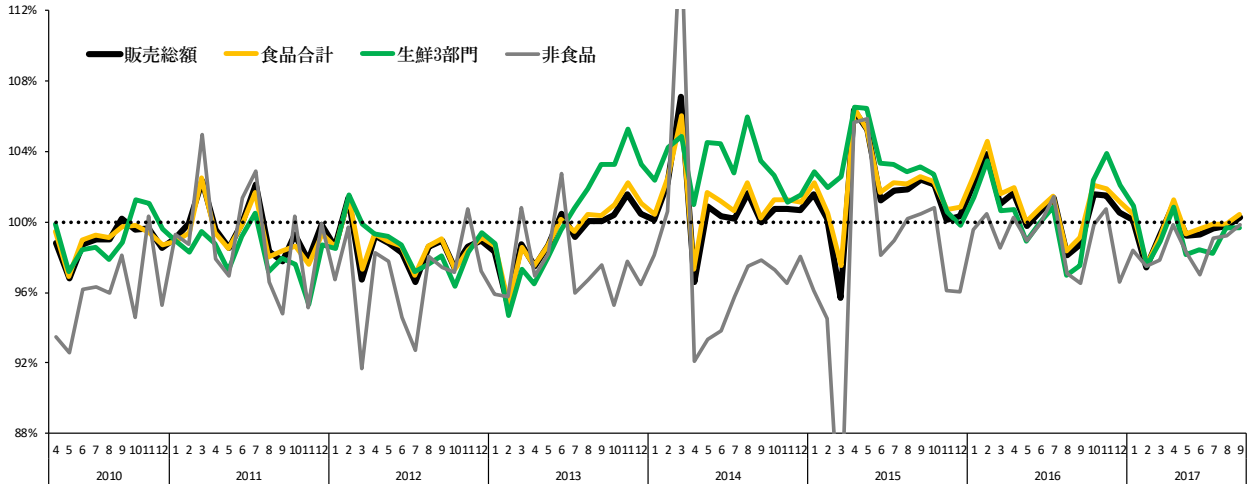
気象庁ホームページ・報道発表資料「9月の気候」参照

平年値は過去30年（1981年~2010年）の平均

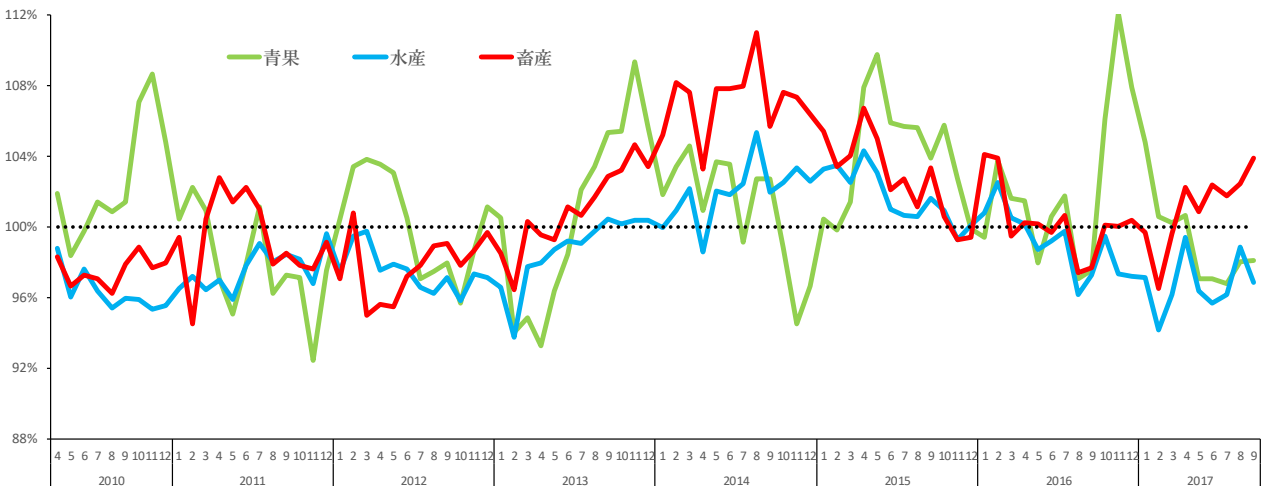
スーパーマーケット統計事務局作成

スーパーマーケット販売統計(パネル270) 既存店前年同月比推移 2010年4月～

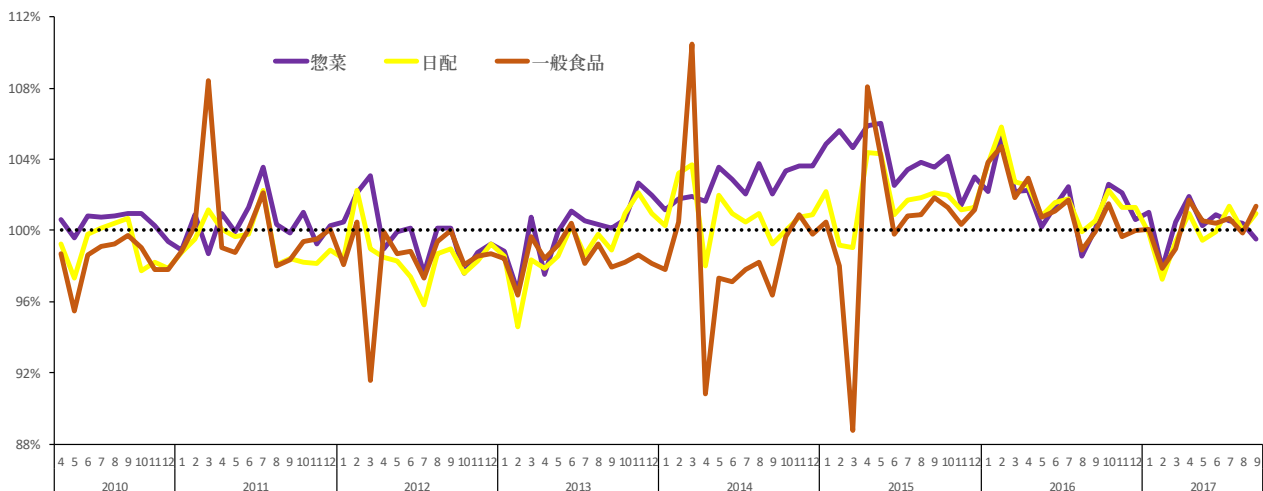
販売総額・食品合計・生鮮3部門・非食品



青果・水産・畜産



惣菜・日配・一般食品



※2010年4月～2017年8月までは確報版による前年同月比、2017年9月は速報版による前年同月比

スーパーマーケット景気動向調査

2017年10月調査結果（9月実績）
（2017年10月20日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会
一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

10月調査（9月実績）結果概況

景気判断DIはわずかに悪化も購買意欲・周辺地域判断DIは改善

9月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DI現状判断は前月から-0.5の44.5、見通し判断も前月から-0.3の41.8となり、ともにわずかな悪化となった。

経営動向調査では、売上高DIが-5.7、収益DIは-6.9とともに前月に比べて上昇した。青果相場は安定しているものの、畜産や水産相場が高く生鮮品仕入れDIが高止まりしていることや、土曜日が一日多い曜日巡りが来客数DIや客単価DI押し上げたことが要因として考えられる。

カテゴリ動向調査では、さんま不漁の影響を受けた水産DIやO157報道による影響を受けた惣菜DIの下げが大きくなっているが、気温の低下により秋冬物商材の動きがよくなったことで他のカテゴリのDIは前月より上昇した。（カテゴリ動向については最終ページに詳細を掲載）

景況感調査では、消費者購買意欲DIや周辺地域景気判断DIの見通し判断に改善がみられた。長期傾向では、すべての移動平均線がプラス方向に転換するなど、上昇トレンドを示す動きとなっている。（周辺地域景気動向DI長期傾向参照）

今月は、中核店舗の景気判断DIが低迷を続けるにもかかわらず、他の見通し判断DIが改善をみせる珍しい動向となった。これは、外部消費環境に明るい兆しが見えはじめているものの、大手小売業での値下げ強化の動き、加えて食品スーパーでは、長引く水産部門の不振、報道による惣菜への警戒感の高まりなどで先行きに対する不安感が根強いことが背景にあると推察される。これを機に、食品スーパーがより安心して食品を購入できる先として販売方法や食品衛生への意識を高めることで、この乖離が縮小することを期待したい。

景況感調査

現状判断

景気判断DI 当月：44.5 (-0.5) 前月：45.0	消費者購買意欲DI 当月：45.2 (+0.4) 前月：44.8	周辺地域 競合状況DI 当月：40.9 (-0.1) 前月：41.0	店舗周辺地域 景気判断DI 当月：47.2 (+1.2) 前月：46.0
--	---	---	---

見通し判断

景気判断DI 当月：41.8 (-0.3) 前月：42.1	消費者購買意欲DI 当月：44.3 (+1.9) 前月：42.4	周辺地域 競合状況DI 当月：38.1 (-1.1) 前月：39.2	店舗周辺地域 景気判断DI 当月：47.3 (+2.0) 前月：45.6
--	---	---	---

経営動向調査 経営状況

売上高DI 当月：-5.7 (+3.6) 前月：-9.3	客単価DI 当月：1.2 (+0.8) 前月：0.4	来客数DI 当月：-9.5 (+1.0) 前月：-10.5	
収益DI 当月：-6.9 (+2.0) 前月：-8.9	販売価格DI 当月：1.7 (-1.4) 前月：3.1	生鮮品仕入原価DI 当月：5.2 (-1.6) 前月：6.8	食品仕入原価DI 当月：3.5 (+0.9) 前月：2.6

カテゴリ動向

青果DI 当月：-11.6 (+2.6) 前月：-14.2	水産DI 当月：-18.3 (-6.1) 前月：-12.2	畜産DI 当月：7.5 (+3.5) 前月：4.0	
惣菜DI 当月：-4.9 (-5.0) 前月：0.1	日配DI 当月：-3.3 (+2.4) 前月：-5.7	一般食品DI 当月：-1.2 (+5.0) 前月：-6.2	非食品DI 当月：-8.9 (+2.4) 前月：-11.3

○ 内は前月DIとの増減、赤字はマイナス

10月調査（9月実績）結果詳細 I. 経営動向調査（2011年4月～）

1. 売上高DI

マイナス圏での低迷が続くが、2か月連続でやや上向き

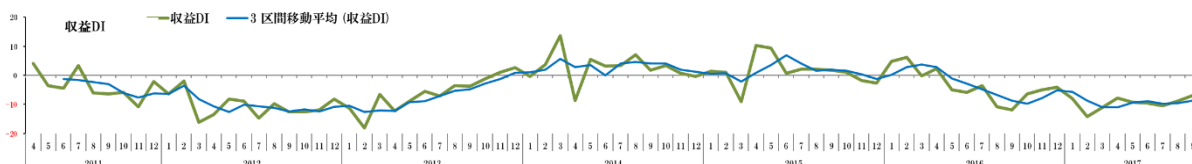
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高（前月）	10.3	37.3	33.3	17.6	1.5	-9.3
売上高（当月）	7.8	34.1	32.3	24.6	1.2	-5.7



2. 収益DI

マイナス圏での低迷が続くが、2か月連続でやや上向き

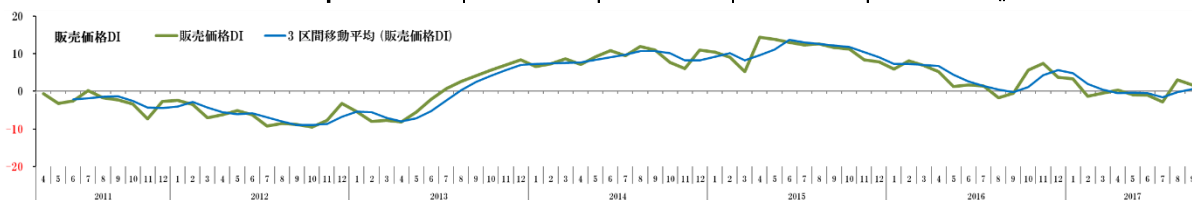
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益（前月）	9.0	38.5	34.0	16.0	2.5	-8.9
収益（当月）	8.5	35.4	33.5	20.1	2.4	-6.9



3. 販売価格DI

プラス圏をわずかに維持し、横ばい推移

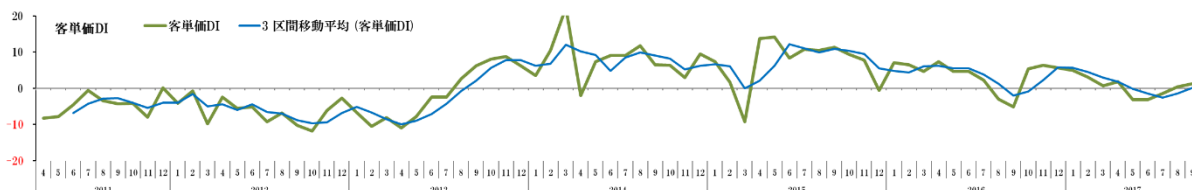
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格（前月）	0.0	10.8	66.2	23.0	0.0	3.1
販売価格（当月）	0.0	10.8	71.7	17.5	0.0	1.7



4. 客単価DI

プラス圏をわずかに維持し、横ばい推移

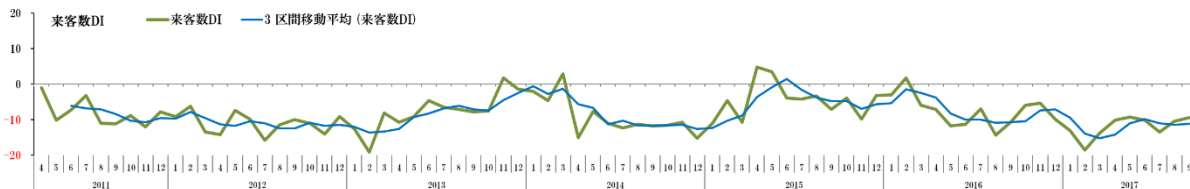
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価（前月）	0.5	23.0	51.0	25.5	0.0	0.4
客単価（当月）	1.2	18.9	53.7	26.2	0.0	1.2



5. 来客数 DI

当月やや上昇もマイナス圏での低迷が続く

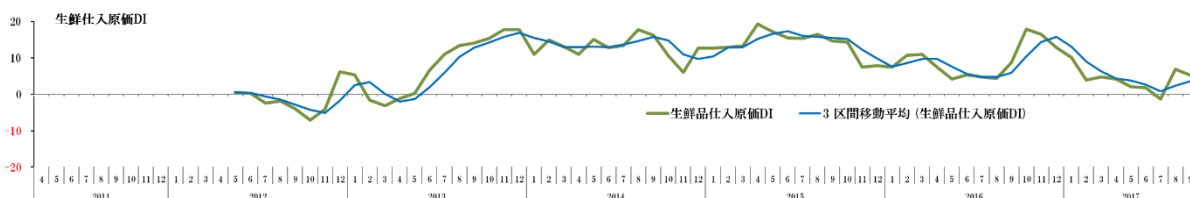
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	8.9	38.4	38.9	13.3	0.5	-10.5
来客数 (当月)	7.2	40.4	36.7	14.5	1.2	-9.5



6. 生鮮仕入原価 DI

2か月連続でプラス圏を維持

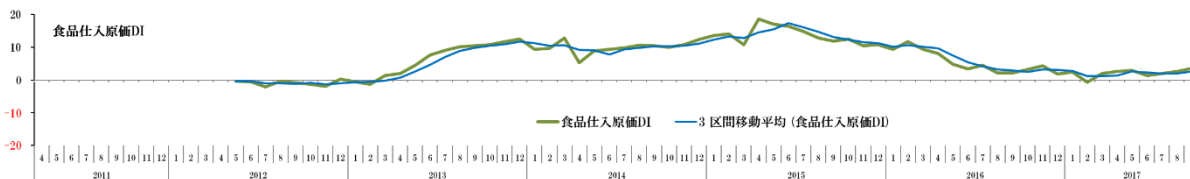
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	3.0	9.0	47.8	38.3	2.0	6.8
生鮮仕入原価 (当月)	2.4	9.1	56.7	28.7	3.0	5.2



7. 食品仕入原価 DI

わずかにプラス域での横ばいでの推移が続く

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	3.0	5.9	69.8	20.3	1.0	2.6
食品仕入原価 (当月)	2.4	6.7	66.7	23.0	1.2	3.5

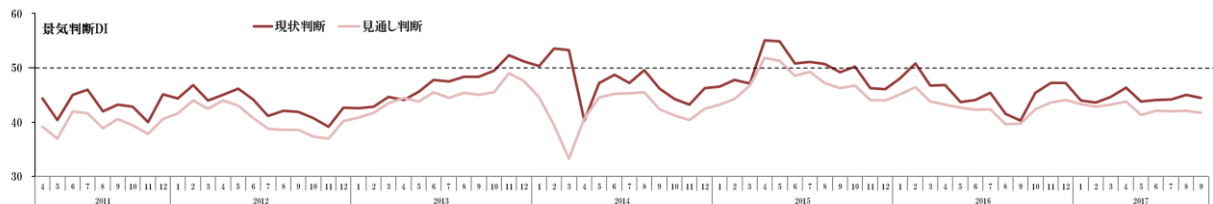


II. 景況感調査 (2011年4月～/周辺地域景気判断のみ2010年4月～)

1. 中核店舗景気判断 DI

現状判断、見通し判断共に前月水準でほぼ横ばい推移

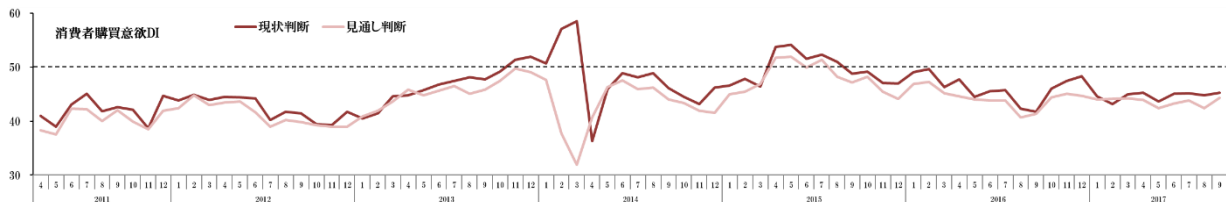
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景気判断 (前月)	1.0	25.7	65.5	7.8	0.0	45.0
【現状】景気判断 (当月)	1.2	28.0	63.7	6.0	1.2	44.5
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景気判断 (前月)	1.9	32.0	61.7	4.4	0.0	42.1
【見通し】景気判断 (当月)	1.8	35.3	56.9	6.0	0.0	41.8



2. 消費者購買意欲 DI

現状判断は前月水準も、見通し判断はやや上向き

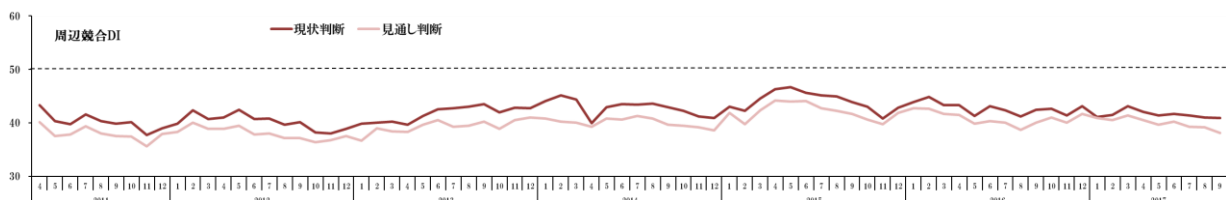
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲 (前月)	0.0	26.7	67.5	5.8	0.0	44.8
【現状】購買意欲 (当月)	0.0	25.6	69.0	4.2	1.2	45.2
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲 (前月)	1.0	30.1	67.5	1.5	0.0	42.4
【見通し】購買意欲 (当月)	0.0	25.7	71.3	3.0	0.0	44.3



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状判断、見通し判断とも大きな変化はみられず

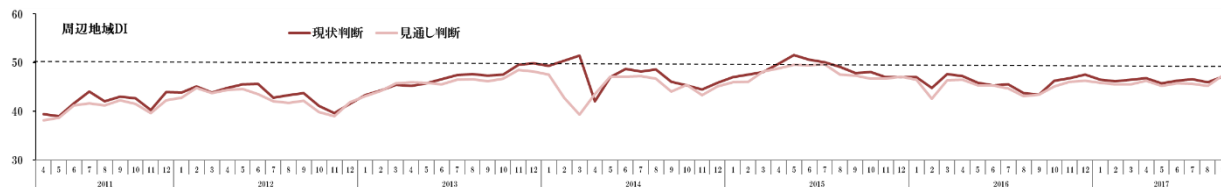
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況 (前月)	4.9	29.6	62.1	3.4	0.0	41.0
【現状】競合状況 (当月)	4.8	31.5	58.9	4.8	0.0	40.9
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況 (前月)	5.8	34.0	57.8	2.4	0.0	39.2
【見通し】競合状況 (当月)	7.1	35.1	56.0	1.8	0.0	38.1



4. 中核店舗周辺地域景気判断DI

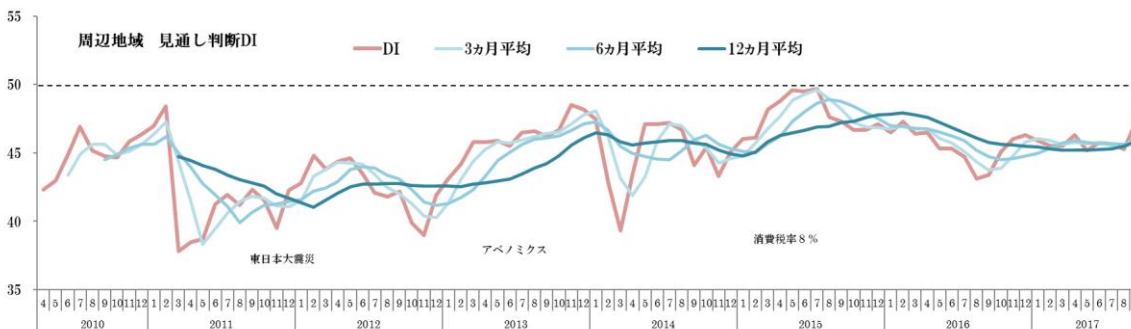
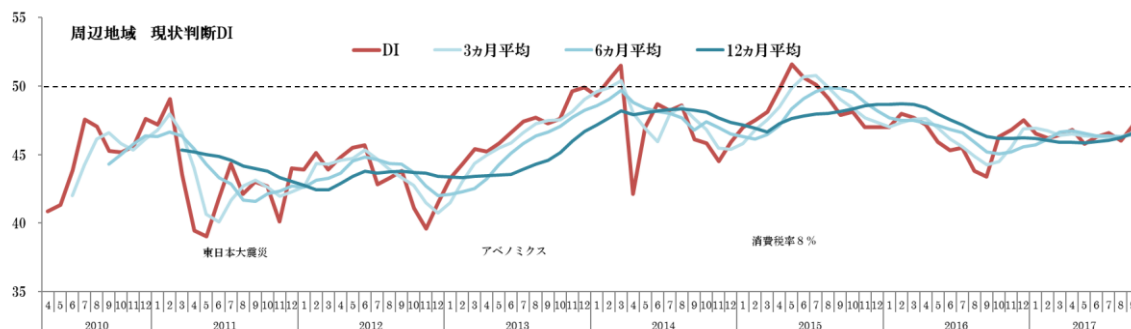
現状・見通し判断共に小幅に改善

回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気 (前月)	0.0	17.5	81.1	1.5	0.0	46.0
【現状】地域景気 (当月)	0.0	13.8	83.8	2.4	0.0	47.2
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気 (前月)	1.0	18.4	79.1	1.5	0.0	45.3
【見通し】地域景気 (当月)	0.0	14.4	82.0	3.6	0.0	47.3



長期傾向 (2010年4月～)

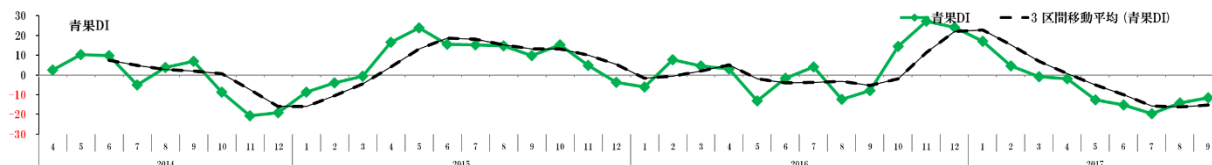
2012年11月以降改善傾向を続けていた「中核店舗周辺地域景気判断DI」は、2014年4月の消費税率引き上げの影響を受け大きく下落した。5月に一旦持ち直したものの、6月～8月まで横ばい推移、9月に再び悪化した。その後、年末から6ヵ月連続で改善し、2015年5月には調査開始以来の最高水準まで改善をみせた。これをピークに6月以降悪化傾向が続き11月は下落の速度が早まった。12月～2月は横ばいで推移したものの、2016年3月以降悪化をみせ、8月には大きく下落した。直近9月に下げ止まりをみせ、12月まで小幅な改善が続いた。2017年に入り、直近は12ヵ月移動線付近で下げ止り、方向感なく横ばい推移が継続していたが、9月ではすべての移動平均線がプラス転換し、足元で上昇トレンドが確認できる状況になっている。



Ⅲ. カテゴリー別動向

1. 青果DI：-11.6（不調）

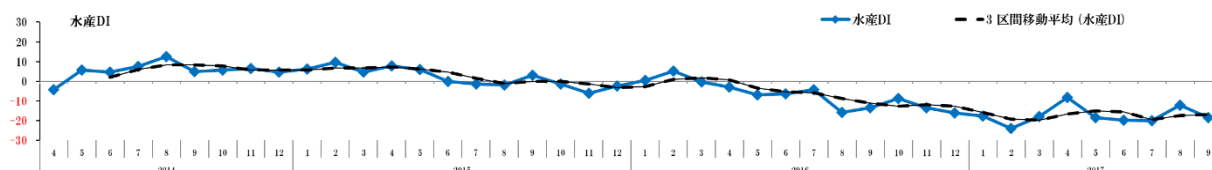
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果（前月）	19.7	35.2	29.5	13.5	2.1	-14.2
青果（当月）	12.4	41.0	28.6	16.8	1.2	-11.6



総じて相場が安定傾向にあるなか、買い上げ点数は増加がみられるものの、特にたまねぎやじゃがいもなどの土物、根菜類で前年北海道産高騰の反動により単価が大きく下落し不調となった。気温の低下により鍋物需要が高まり菌茸類や薬物類の動きがよくなっている。果物は前年並みかそれ以下とする店舗が多いがカットフルーツは安定して好調であるとのコメントが多い。

2. 水産DI：-18.3（不調）

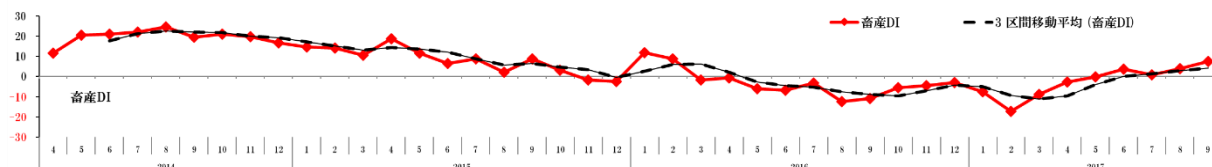
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産（前月）	13.8	40.0	29.7	13.8	2.6	-12.2
水産（当月）	19.3	45.3	25.5	9.3	0.6	-18.3



旬であるサンマや秋鮭が極端な不漁で入荷が少なく価格も高い影響を受け不調となった。比較的入荷が安定しているイワシは好調だったほか、気温の低下により鍋もの食材の動きがよかった。刺身類に対してはアニサキス報道の影響が続いているとの指摘も多い。

3. 畜産DI：7.5（やや好調）

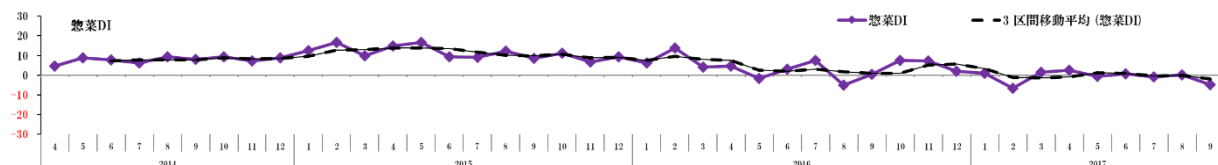
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産（前月）	5.1	20.5	33.3	35.4	5.6	4.0
畜産（当月）	3.1	18.0	33.5	36.6	8.7	7.5



国産豚肉を中心に相場が高値で推移するなか、気温低下により鍋物やしゃぶしゃぶなどホットメニューへ需要の高まりにより、牛・豚肉では、国産、輸入共に好調となった。鶏肉は好不調がややわかれている。水産カテゴリーからの需要シフトが追い風になっているとの指摘が多い。ウインナーなどの加工肉も好調となっている一方で、他業態との価格競争の指摘もみられた。

4. 惣菜DI：-4.9（やや不調）

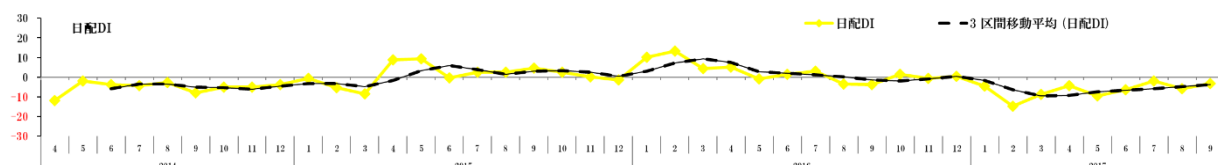
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	4.2	25.5	39.6	27.1	3.6	0.1
惣菜（当月）	6.9	34.0	34.6	20.8	3.8	-4.9



O157 報道により、ポテトサラダなどのサラダ類が不振となっている。対策として量り売りを見合わせる店舗も出るなど影響が表れている。気温の低下やアサニキス報道による影響を受け寿司関連、てんぷらを不調とするコメントが多い。一方で、ホットメニューは動きがよく、特に旬の食材を活用した弁当や丼ものを好調にあげる店舗が多い。

5. 日配DI：-3.3（やや不調）

回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	6.8	31.8	40.1	20.3	1.0	-5.7
日配（当月）	4.3	26.7	49.1	17.4	2.5	-3.3

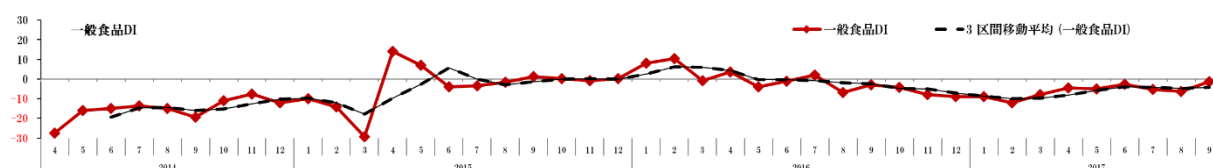


気温の低下により、おでんや鍋用の練製品を中心に和日配の動きがよかった。一方で、アイスやチルド飲料が不振となった。洋日配、特にヨーグルトやチーズは好不調の判断がわかれている。パン類や中華まん、炊き込みご飯は好調とするコメントが多い。

6. 一般食品：-1.2（やや不調）

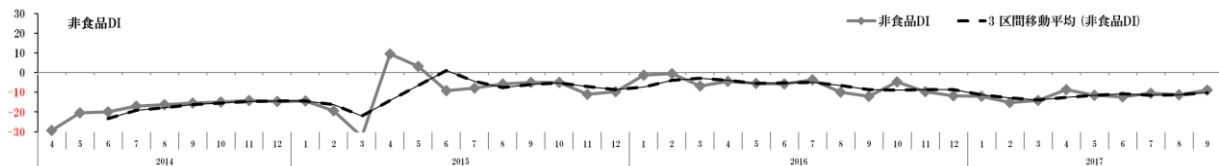
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	6.2	34.7	37.8	20.2	1.0	-6.2
一般食品（当月）	4.3	26.1	41.0	27.3	1.2	-1.2

気温の低下により、スープ類や鍋つゆ、麺類などの秋冬物商材の動きがよかったほか、コーヒーやお茶なども好調となった。一方で飲料やビールなどのアルコール類は不調となった。米類は新米の価格がやや上昇しているなか、好不調がわかれている。



7. 非食品DI：-8.9（やや不調）

回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	11.2	37.2	38.8	11.2	1.6	-11.3
非食品（当月）	7.7	36.1	43.2	9.7	3.2	-8.9



行楽需要や季節商材の一部に好調な動きは見られたが、ホームセンターやドラッグストアなどとの価格競争の影響を指摘するコメントが多いほか、売場を縮小する動きもみられた。

カテゴリー別DIによる好不調判断

かなり好調：～20 好調：20～10 やや好調：10～0
 やや不調：0～-10 不調：-10～-20 かなり不調：-20～

2017年10月調査（9月実績）キーワードTOP3

1. 前年より気温が低い
2. 土曜日が一日多い
3. 水産部門の不振

スーパーマーケット景気動向調査 集計数

9月実績速報版 168社
 8月実績確報版 206社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 tokei@super.or.jp